

## 引用文献

- 有働 裕子. (2000). 寝たきり患者の家庭復帰へ向けての援助 排泄の自立を通して. *日本リハビリテーション看護学会学術大会集録, 12回*, 177-179.
- Denti, L., Agosti, M., & Franceschini, M. (2008). Outcome predictors of rehabilitation for first stroke in the elderly. *European Journal of Physical and Rehabilitation Medicine*, 44(1), 3-11. doi:R33Y2008N01A0003 [pii]
- Edgar H. Schein. (2009)/金井壽宏監訳, 金井真弓訳. (2014) 人を助けるとはどういう事か. 英治出版.
- 原田 俊一, 篠永 正道, 永山 正雄. (2013). 当院における独居者脳卒中治療の現況. *Neurosurgical Emergency*, 18 (1) , 35-41
- 伊藤 郁乃, 佐藤 広之, 濱田 康平, 新藤 直子. (2011). リハビリテーション後の転帰と在院日数に影響を与える社会的要因の検討. *The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine*, 48 (8) , 561-565.
- 池田 富三香, 丸岡 直子. (2016). 排泄援助における看護師の日常倫理. *日本看護倫理学会誌*, 8 (1) , 62-69.
- Langhorne P, Taylor G, Murray G, Dennis M, Anderson C, Bautz-Holter E, et al. Early supported discharge services for stroke patients : a meta-analysis of individual patients' data. *Lancet* 2005 ; 365 : 501-506
- Langhorne P, Holmqvist LW. Early supported discharge after stroke. *J Rehabil Med* 2007 ; 39 : 103-108
- Lotze M., Cohen L. G.. (2006). Volition and imagery in neurorehabilitation. *Cognitive and Behavioral Neurology : Official Journal of the Society for Behavioral and Cognitive Neurology*, 19 (3) , 135-140. doi: 10.1097/01.wnn.0000209875.56060.06 [doi]

- Lotze M., Braun C., Birbaumer N., Anders S., Cohen L. G. (2003). Motor learning elicited by voluntary drive. *Brain: A Journal of Neurology*, 126 (Pt 4), 866-872.
- 前田 悠太朗, 渡邊 晶規, 日比野 至. (2013). 回復期リハビリテーション病棟における自宅復帰に影響を与える因子FIMを用いた検討. *名古屋学院大学論集(医学・健康科学・スポーツ科学篇)*, 2 (1), 1-8.
- 森田 恵美子, 飯島 佐知子, 平井 さよ子, 賀沢 弥貴, 安西 由美子. (2010). 転倒アセスメントスコアシートの改訂と看護師の評定者間一致性の検討. *日本看護管理学会誌*, 14(1), 51-58.
- 三木 智子, 中島 峯子, 川那邊 真弓. (2014). リハビリテーションが主体的にできない脳血管障害患者への援助 スケジュール表を用いて患者・家族と短期目標を共有した看護介入. *日本看護学会論文集: 成人看護 ii*, (44), 90-93.
- 流石 ゆり子. (2001). 障害をもつ在宅高齢者の生活の質への影響要因 ソーシャル・サポート授受の視点より. *日本在宅ケア学会誌*, 4 (3), 32-39.
- 中江 詩織. (2014). 機能性尿失禁患者の失禁改善に向けた介入. *福岡赤十字看護研究会集録*, (28), 23-26.
- 中嶋 利枝, 亀山 清美, 太田 くる美. (2007). 高齢者排泄援助に関する調査研究 看護職のジレンマについて. *日本看護学会論文集: 老年看護*, (37), 224-226.
- 中嶋 崇. (2011). 脳出血により重度左片麻痺を呈した症例のポータブルトイレでの排泄を目指した取り組み 病棟スタッフとの連携の重要性. *理学療法研究・長野*, (39), 73-75.
- 鍋山 玲子, 林 由美, 潮崎 珠美, 福田 睦美, 奥村 志乃, 山田 すみ子. (2002). 排泄行動中に発生した転倒事故の要因に関する考察. *日本リハビリテーション看護学会学術大会集録*, 14回, 89-91.
- 大倉 美穂, 深井 喜代子(編). *基礎看護技術* (第3版). 東京: メヂカルフレンド社.

- 小川 彰, 出江 紳一, 他 (編) 脳卒中合同ガイドライン委員会 日本脳卒中学会脳卒中ガイドライン委員会, 脳卒中治療ガイドライン 2015. 協和企画, 東京, 2015
- 木下 康仁. (2007). *質的研究と記述の厚み : M-GTA・事例・エスノグラフィー*. 東京 : 弘文堂.
- 木下 康仁. (2009). *質的研究と記述の厚み : M-GTA・事例・エスノグラフィー*. 東京 : 弘文堂.
- 小嶋 健一, 白石 成明. (2015). 脳卒中リハビリテーション患者の自宅退院と関連する因子の検討 リハビリテーション患者データベース登録データを活用して. *日本福祉大学健康科学論集*, 18, 9-17.
- 厚生労働省 (2016) 『厚生労働白書』  
<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16-1/dl/gaiyou.pdf>
- 厚生労働省 生活習慣病予防のための健康情報サイト. (n.d). e-ヘルスネット, Retrieved April 26, 2017, from <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/metabolic/ym-069.html>
- Rapp Charles A., Goscha Richard J., 伊勢田 堯, 田中 英樹, 上野 容子, 浦野 由佳他, 森田 久美子. *ストレングスモデル : リカバリー志向の精神保健福祉サービス* (第3版). 東京 : 金剛出版.
- 齋藤 智美, 滝川 紀子, 大野 徳章, 大竹 朗. (2011). 当院の脳卒中患者における在宅復帰困難症例の分析. 第30回関東甲信越ブロック理学療法士会
- Strauss Anselm L., Glaser Barney G., 大出 春江(1952-), 水野 節夫(1948-), 後藤 隆(1956-). *データ対話型理論の発見 : 調査からいかに理論をうみだすか*. 東京 : 新曜社.
- Stretton, C. M., Mudge, S., Kayes, N. M., & McPherson, K. M. (2017). Interventions to improve real-world walking after stroke: A systematic review and meta-analysis. *Clinical Rehabilitation*, 31(3), 310-318.

- 嶋添 深幸, 村上 亜紀, 大城 正樹. (2008). 看護師の排尿援助に関する意識調査. *化学療法研究所紀要*, 38, 33-37.
- 住谷 ゆかり. (2014). 入院生活を送る後期高齢者の「援助を受ける体験」 看護援助に焦点をあてて. *日本看護研究学会雑誌*, 37 (1), 83-93.
- 末廣 健児, 石濱 崇史, 後藤 淳. (2008). 【身のまわり動作と生活関連動作を考える】 トイレ動作について考える. *関西理学療法*, 8, 7-11.
- 竹内 球菜. (2011). 社会資源活用と住環境整備により自宅退院に至った独居脳梗塞右片麻痺の一症例. *理学療法群馬*, (22), 26-29.
- 田中 美穂. (2008). 入院・治療中の超高齢者がもつめる看護 体験の記述と解釈. *日本看護研究学会雑誌*, 31 (2), 37-46.
- 津坂 翠, 梅本 吉昭, 林 浩之, 長谷川 龍一. (2013). 脳血管疾患等の患者が自宅退院するために必要な日常生活活動能力. *作業療法*, 32 (3), 256-261.
- 植松 海雲, 猪飼 哲夫. (2002). 高齢脳卒中患者が自宅退院するための条件 Classification and regression trees(CART)による解析. *リハビリテーション医学*, 39 (7), 396-402.
- 上川 智子, 倉持 昇, 泉 キヨ子. (2004). 脳卒中患者の排泄を助ける「トイレ介助バー」の考案と評価. *日本リハビリテーション看護学会学術大会集録, 16回*, 126-128.
- 植田 彩, 辻村 真由子, 岡本 有子, 園田 芳美, 松浦 志野, 望月 由紀, 石垣 和子. (2009). 排泄ケアにみられる身体性 国内文献に記述された実践事例のメタ統合を通して. *千葉看護学会会誌*, 15 (1), 68-75.
- 山口 多恵, 松尾 理佳子, 勝野 久美子, 濱野 香苗. (2009). 回復期リハビリテーション病棟における転倒とリハビリテーション訓練内容の実態調査. *保健学研究*, 22(1), 17-24.
- 横山 孝枝, 出村 佳子, 高間 静子. (2012). 片麻痺で車椅子を使用して自立でトイレ排泄をしている患者の便漏れを予防するための対処行動の特徴. *新田塚医療福祉センター雑誌*, 8 (2), 95-98.

- 吉本 好延, 吉村 晋, 浜岡 克伺, 大山 幸綱, 橋本 豊年, 佐藤 厚. (2011). 在宅脳卒中患者における屋内での転倒関連要因の解析 歩行可能な患者の検討. *四国公衆衛生学会雑誌*, 56 (1), 121-124.
- 吉川 真理子, 曾根 晶子, 藤倉 妙子. (2015). 脳血管疾患患者の初回トイレ誘導を安全に行う為の看護師の判断基準. *日本看護学会論文集: 急性期看護*, (45), 131-134.
- 吉川 まどか. (2013). ポータブルトイレの受け入れが困難であった症例に対する院内でのポータブルトイレ自立に向けての取り組み. *長野県作業療法士会学術誌*, 31, 62-6